

2017-2018 年度 国際ロータリー・テーマ  
 会長 イアン H.S. ライズリー

2017-2018 年度 士別ロータリー・スローガン  
 伝えたい、心の息吹を隣人に



ロータリー  
 変化をもたらす



士別市環境センター（リサイクルセンター）

- RI HP <https://www.rotary.org/ja>
- 2500 地区 HP <http://www.abashiri-rc.jp/2017/>
- 士別 RC HP <http://www.douhoku.jp/sibeturc/>
- 例会場／士別グランドホテル
- 例会日／毎週月曜日 12:10～13:10

- 会長／北村 浩史
- 副会長／近井 孝義
- 幹事／谷村 一文
- 事務所／士別グランドホテル（東3条6丁目）  
 TEL 0165-23-1234

**第 2684 回例会 2017 年 8 月 28 日（月）**  
**今日のプログラム：・夜間例会**

**● 前回（8月21日）の記録／・普通例会**

司 会 千葉 道夫 会場監督  
 斉 唱 我等の生業  
 本日の出席 会員 46 人中 出席者 35 名 出席率 76.09% 修正 %  
 本日の欠席 加藤 博、川島 啓、菊地昭通、國森和磨、近藤峯世、佐藤元保、鈴木 勉、  
 千葉繁雄、深尾幸夫、渡辺正一、谷 温恵

ゲ ス ト  
 ビ ジ タ ー

メイクアップ  
 ニコニコ BOX

累計 68,000 円

**● 例会予定**

**◆ 9 月例会（新世代のための月間）**

- 9 月 4 日（月） 普通例会、理事会
- 9 月 11 日（月） 普通例会
- 9 月 18 日（月） 休会（法定休日：敬老の日）
- 9 月 25 日（月） 夜間例会

**◆ 10 月例会（職業奉仕月間・米山月間）**

- 10 月 2 日（月） 普通例会、理事会
- 10 月 9 日（月） 休会（法定休日：体育の日）
- 10 月 16 日（月） 普通例会
- 10 月 23 日（月） 普通例会
- 10 月 30 日（月） 夜間例会

## ■会務報告・・・・・・・・・・北村浩史 会長

■いきなりゴキブリの話で申し訳ないのですが、人類が滅んでもゴキブリは生きながらえると言われています。でも実際には気温が35度以上になれば、高温障害が出始め、40度以上になると致死状態になるそうです。この夏の関東以南では人間のみならず、ゴキブリも人間と同様、とって暮らしくかたかかもしれません。ゴキブリさんも地球温暖化に勝てないのかと思うと、いささか情けないような気分になりました。そんな本州の東北では一方で日照時間が不足し、低温が続く、凶作とまではいかなくとも農作物への影響が心配されています。なにやらまだら模様の日本列島の天気ですが、ではこの地方はどうかというと、野菜類は生育がやや早く、水稲も順調で全体的には回復しているということです。このまま、順調に進み、豊穡の秋を迎えてほしいと思います。

■この2カ月弱で、ロータリーの一員として、ふれあい広場、ハーフマラソンの集い、サフォークランドサッカー大会、少年国際サッカー大会、招魂祭と案内を受け、行ってまいりました。妙なもので、こういう役職で出席してみると、他の奉仕団体の参加に対する意欲や考え方が少しですが相対的に見えてきて、ちょっとですが関心がわいてきました。ロータリーはずっと奉仕団体だと教えられてきました。でもそれ以上に土別という地域にとって、根っ子を生やしてほしいという社会的存在なのではという気もしてきました。もし土別市からロータリーといった社会性のある団体が存在しなくなったら、けっこう地域の衰退を象徴するような印象を与えてしまうのではないかということです。「もし土別からロータリーが無くなったなら、市民感情はどのような印象を描くのだろうか。寂しいと思うのか。それとも関心がないままに終わってしまうのだろうか」。そんな自問に気付かされたこの2カ月間でした。

## ■幹事報告・・・・・・・・・・谷村一文 幹事

1. 合宿の里土別推進協議会幹事会 幹事長名で2017日本実業団選抜男子長距離夏季強化合宿選手との親睦交流会の開催案内及び会券が来ております。協力をお願いいたします。
2. 第26回つくも園ふれあい青空祭が9月3日10時より行なわれます。会券が来ておりますので協力をお願い致します
3. 前回の例会でご案内した10月の地区大会の出欠は本日までとなっております。宜しく申し上げます。尚、変更のある方は9月4日までに幹事まで連絡下さい。
4. 来週の8月第3例会は夜間例会ですので時間にお間違えのないようにお集まりください。

## ■会員卓話・・・・・・・・・・福島和秀 会員

私は、一般社団法人北海道LPガス協会 上川支部の青年委員として人と火の歴史、エネルギーと環境問題に関して小学校5年生を対象とした炎の出前教室「ファイヤー探検記」を行わせていただいております。今日はこの機会をいただきまして、少しだけエネルギーと環境に



ついて話させていただきたいと思います。

人類とエネルギーの関係は、約50万年前に薪などを使って火を利用し始めたときから始まったといわれています。その後、農耕や牧畜を始めた人類は移動や輸送に家畜や風力(帆船)を利用したり、穀物を製粉するために水力や風力を、暖房や炊事のために主として薪を利用していましたが、そのエネルギー消費量及びエネルギーの利用用途は、非常に限られたものでした。

因みに family という語源は火を囲む最小の集団だと言われています。

18世紀に入り産業革命が起こると、石炭をエネルギー源とする蒸気機関が工場や輸送機器(蒸気機関車等)において動力源として利用されるなど、工業化の進展に伴いエネルギー消費量が急速に増加するとともにエネルギーの利用用途も広がりました。これによって社会の生産力が上昇し、より便利でより豊かな生活を享受することもできるようになります。

さらに、エネルギーの利用用途が広がるに従って、エネルギー源にも一層の汎用性が求められるようになります。このため、20世紀中頃に石炭よりも使い勝手が良く、利用用途を拡大しやすい石油が主要なエネルギー源としての地位を占めるようになります(流体革命2)、工場や輸送機器(船舶、自動車、航空機)、発電用の燃料として、また、暖房用の燃料や化学製品の原料等として石油が大量に消費されるようになります。また、電気エネルギーの利用が産業部門においても家庭部門においても普及し消費量も拡大したことで、発電に利用できるエネルギー開発も進められました。このようなエネルギー消費量及び利用用途の更なる拡大に応じて社会の生産力もまた大きくなり、それに伴って生活水準や公衆衛生も向上するので人口の増加ペースも一段と急速に伸び、それがまた一層のエネルギー消費量の増加をもたらすようになると考えられます。

また、今後も世界人口は増加する見込みであり、加えて新興国におけるエネルギー消費量も工業化やモータリゼーションの進展等により増加しています。このため、2030年の世界のエネルギー消費量は1990年の約2倍に達するなど、エネルギー消費量はこれからも増加し続けていくものと考えられています。

現代社会において、エネルギーは衣・食・住・労働・移動・娯楽などあらゆる面で活発に利用されています。物資の生産を行う工場等においては各種機械類を稼働させるための燃料や電気が欠かせませんし、人や物の移動のためにも燃料や電気を利用しています。また、オフィスや家庭生活においても、電化製品や情報機器の普及によってより一層のエネルギーを必要とするようになりました。次号につづく。



8月の結婚祝い